

地域自立支援協議会 会議要録

会議名：白井市地域自立支援協議会委嘱状交付 及び 令和4年度第1回地域自立支援協議会全体会

日時：令和4年5月19日（木）

場所：団体活動室1・2

出席者：林会長、鈴木（一）副会長、飯ヶ谷委員、高橋（祐）委員、石川委員、田中委員、大網委員、森田委員、橋本委員、高橋（奈）委員、藤原委員、神成委員、村田委員、川上委員、上野委員、赤間委員、白田委員（17名）（以下、敬称略）、事務局（鈴木（智）課長、山本、伊藤、久保田、高橋（友））

欠席者：山崎委員、染谷委員、岩橋委員、村松委員

傍聴者：0名

資料：会議次第

資料1 白井市地域自立支援協議会設置要綱

資料2 白井市地域自立支援協議会委員名簿

資料3 令和4年度 地域自立支援協議会 年間予定（案）

資料4 地域生活支援拠点に関する報告書

議題：

- (1) 白井市地域自立支援協議会について（年間予定・要綱改正）（資料1）
- (2) 令和4年度部会の活動について
- (3) 地域生活支援拠点の令和3年度活動報告及び令和4年度計画について
- (4) その他

内容：

【委嘱状交付式】

委嘱状 机上交付

課長挨拶 白井市では、20歳から60歳の働く世代が、この5年間で約1,300人減少し、75歳以上の方が約2,200人増加した。手帳所持者も年々増加している。必要なサービスを維持をしていくこと、介護や福祉のサービスを継続するための人材確保と育成、地域活動の活性化と連携が重要と考えている。本協議会は、その際の要となる重要な会議となる。

【白井市地域自立支援協議会会議】

会長挨拶

コロナが始まって2年。久々に集まることができた。感染状況は続いていながら、少しは通常に戻ってきている。様々な立場の人が集まっている。コロナのことを含めそれぞれの経験を伝えていただき障がい者施策に寄与する会議としたい。遠慮なく意見を出していただきたい。

委員自己紹介

飯ヶ谷：相談支援事業所座ぐり・手織。課題は増え続ける相談件数。相談支援専門員が簡単には集まらない。市内ではまだセルフプランが多い。

林：社会福祉法人フラット。業界全体でコロナクラスターなどによる活動自粛が多く、メンタルヘルスを病む人が多い。休職がとりづらい。担い手が大きな課題となっている。

高橋（祐）：就労継続支援 B 型みのり。皆さんと情報共有し、一人でも多くの人が働ける社会になれば。

石川：就労継続支援 B 型ぽけっと。メンバー14名。職員3名。平均工賃は19,000円を超えた。令和元年以降一般就労がない。一般就労の増加、工賃増加を図りたい。

田中：自立訓練第2ぽけっと。相談支援専門員としては大井が担当。

大網：にこにこケアステーションと相談室。ヘルパー不足と育成は長年の課題。今年度相談員を雇用する。依頼が多い中で、一件一件をどれだけ大事に利用者と向き合えるか。昨年実施の就職応援フェアで入職した人がいる。そういう取り組みも大事にしていきたい。

森田：就労就労支援明朗アカデミー。移行でも困難事例で支援が必要な、例えば高次脳や二次障害の人が増えている。多様な職種との連携が必要になってきた。

橋本：成田地域生活支援センター。「にも包括」の圏域コーディネーターを受けている。精神障がい者の住みやすい地域づくりに特に注力したい。

高橋（奈）：小池病院相談員。白井市から近い、精神科単科。知的、発達、高齢者なども受け入れている。入院後の在宅の復帰率が80%を超えている。

白田：中核すけっと。相談の傾向として不登校ひきこもりが多い。児から親への暴力が絡むケースが増えている。受診にもつながらない。

赤間：社会福祉協議会。成年後見、日常生活自立支援。日常生活～は利用者が増加し待機者が増えている。早くても3か月待ち。体制整備に努めている。連携しながら地域づくりしたい。

上野：いちごの会。こども発達センターの通所の親の会。高校3年になる知的の児がいる。このコロナ禍、小さい児がいる家庭はもっと大変だったと思う。親を支える体制も整えていきたい。

川上：手をつなぐ育成会。知的と重複、約35名の会員。保護者も高齢化。8050が間近になっている。

村田：障害者就業・生活支援センター（以下、なかぼつ）。7市2町。工業団地とも連携をしながら進めていきたい。

神成：教育支援課。特別支援学級を7年経験。支援の必要な児が増えている。支援級の生徒が非常に増えているが、普通学級で支援の必要な児が減っているわけではない。児が自立していくのに、どの学校どの学級に所属するのが良いのかなど、検討して取り組んでいる。

藤原：松戸特支。肢体不自由、小から高、白井市は9名。地域での生活につなげていきたい。

鈴木（一）：レ・アーリ相談支援事業所。昨年6月から計画相談を実施。昨年度、濃厚接触で出勤ができなくなった。BCPもあるが、家庭訪問等もキャンセルをしたりかなりの影響があった。

事務局

鈴木（智）：障害福祉課長2年目。こども発達センターが、子育て支援課から障害福祉課に移管された。

伊藤：障害支援係となった。虐待等も担当。防止委員や身体拘束適正化委員等が義務化された。事業所からの相談にも応じる。

高橋（友）：就労支援員。皆さんにいろいろ教えていただき活動したい。

山本：給付係。主にサービスの支給決定と、障害者計画等を担当する。

久保田：こども発達センターに所属し、相談支援を専従で実施。

議題(1) 白井市地域自立支援協議会について（年間予定・要綱改正）（資料1）

伊藤：資料に基づき説明。

橋本：要綱の一部にスペースが入っている→字句訂正

議題(2) 令和4年度部会の活動について 各部長より説明

飯ヶ谷：生活支援部会は、相談支援WG、子どもWG。さらにその下部組織として、精神の「にも包括」会議、医療的ケア。昨年度から困難事例を持ち回りで実施している。基幹相談の検討をしていきたい。また、相談支援事業所の連絡会を実施していきたい。

高橋（祐）：情報交換を積極的に行い、その時の課題について協議していく。相談会等の実施。特別支援学校の在校生等を把握し、福祉的就労や、一般就労につながるよう支援。通所交通費助成についても昨年の課題となっていた。

橋本：相談WGで基幹等の整理とのことだが詳細は。

飯ヶ谷：市内に基幹がない。基幹も含めて、委託相談、一般相談、指定特定相談の役割の整理をしていきたい。

林：医療的ケアの検討について。家族の参画はどうか。

伊藤：昨年度検討していたメンバーには入っていない。団体がいない中でどのように参画をお願いできるか。

林：医療的ケアは内容の幅が広い。軽度から重度までいる。断片的な情報ではなく、ご家族から実態として困っていること、医ケアの内容での困りごとだけでなく、生活の場での困りごとを扱っていくことが大事。

議題(3) 地域生活支援拠点の令和3年度活動報告及び令和4年度計画について

飯ヶ谷：地域生活支援拠点について。概況及び資料4に基づき説明。

- ・白井市では、面的整備、フラット一法人で実施。365日の相談。市外では、様々な法人で実施しているところもある。
- ・夜間相談は令和3年度20件（※R4.9修正）あった。障がい児の親や当事者などから。独居での不安、調子が悪く病院に連れて行ってほしい、家庭内不和について、親から虐待を受けている、コロナ禍の不安などがあった。他市からの相談や非通知での電話もある。
- ・体験の機会については、短期入所の利用が月数名あった
- ・地域の体制づくりとしては、今後相談支援事業所の連絡会を実施していきたい。（協議会で行うか、拠点として行うかを検討）

白田：事前登録制か

飯ヶ谷：登録制はとっていない

橋本：緊急受入れの費用は

飯ヶ谷：短期入所+拠点としての加算

伊藤：昨年フローを作成。短期入所が決定されている人は短期入所、決定されていない人は特例給付費で後申請、契約者がいない、虐待等は居室確保又はレスパイト

白田：具体的事例は

飯ヶ谷：令和3年度緊急受入れはなかった

伊藤：夜間相談は市民に積極的に案内してよいことを確認。また、聴覚障がい者の相談方法は課題として残っていたと思うが、昨日夜間対応で、聴覚障がい者の方の相談が市に入っていた。

林：4団体が拠点について国に意見書を出している。市によって差が激しい。緊急の受入れだけになっているところもある。市町村からのお金の出方によって対応が違っている。運営している法人の力量によって差がある。基金を配置するしかない。報酬体系がない。毎日緊急受入れを受けて成り立つ。医療的ケアを受けても8,000円。1,000万とか2,000万とかをつけていく等、お金の面をどうしていくか。担い手としては、他法人も絡めていく。国は、相談の単価が上がっていると言うがそれだけでは市町村格差は埋まらない。

議題(4) その他

伊藤：ワクチン接種。4回目は、全員ではなく、60歳以上と基礎疾患のみ。障害者手帳所持者の一部が対象となる。協力をお願いします。

今年度、事業所と行政対象の災害に関する研修を協議会として行いたい。幹事と事務局で開催までの準備を進めていくが、協力をお願いします。

以上